

第1 日時

令和3年(2021年)12月23日(木曜日) 午後4時から午後5時15分まで

第2 場所

大学サテライトプラザA教室

第3 出席者等

1 委員

曹 美花委員、川井 小百合委員、NGUYEN QUANG VU委員、
井嶋 タイス委員

2 事務局

人権政策課 村田課長、佐伯多文化共生係長、奥村主任通訳

3 傍聴者・報道関係者

傍聴者1人

第4 内容(●人権政策課発言、○外国人住民モニター委員発言)

《説明》防災メールについて

●災害に関するメールを、8月からポルトガル語・英語・中国語・韓国語・ベトナム語でも日本語と同じタイミングで情報提供ができるようになった。事前にアドレスを登録してもらう必要があるため、登録をしてほしいというお知らせを2回送付した。

<送付状況>

1回目(7月) チラシを封筒で送付

2回目(9月) ハガキで送付…ハガキは前回のモニター会議

で出された意見を基に作ったもの

<登録状況>

11月末時点で、143アドレス(外国人住民全体の5%程度)

市役所に来られる外国人住民には、通訳対応時にメールの登録を勧めているものの、登録を迷う方もおられるので、なかなか登録者が増えていない。どうすれば、登録してもらえるか、意見がほしい。

彦根市の情報発信は、ポルトガル語・英語・中国語はホームページに加え、FACEBOOKもあるもので、それらを活用して登録案内をしているが、まだ少ない。また、ベトナム語はそれらの情報発信

言語	利用者
ポルトガル語	40
英語	36
中国語簡体字	23
韓国語	7
ベトナム語	32
日本語	5
総計	143

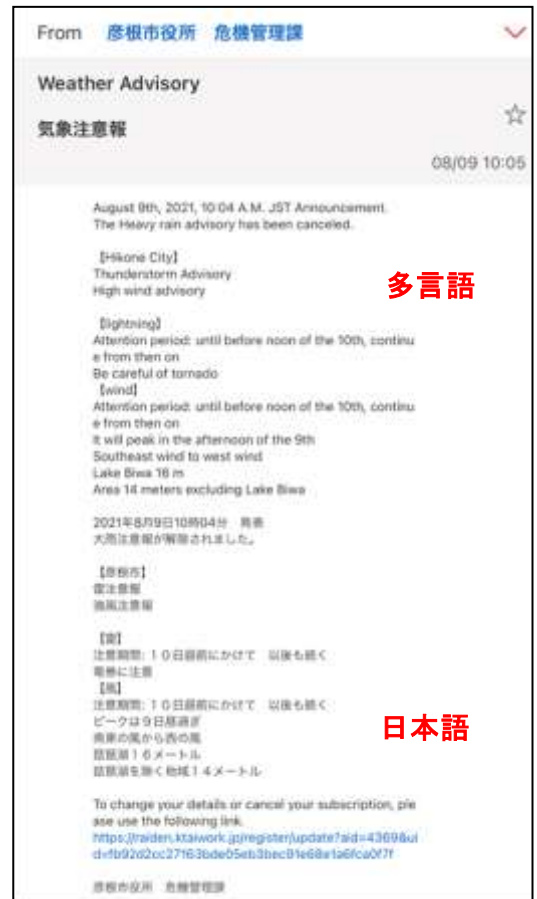
がないが、登録はポルトガル語・英語と同程度あるものの、年齢層を考慮するともう少し登録数を増やしたい。

<送付イメージ>

右のとおり…各言語で書いたものと日本語訳を併記。

翻訳した内容がよく理解できない場合に、近くの日本語が読める人に聞くことができるようになっている。

自分が希望した内容の情報が届くので、メールが届く頻度等は人によって異なる。今は新型コロナウイルス感染症の情報も、このメールシステムで送られている。



《意見交換》（●人権政策課発言、○外国人住民モニター委員発言）

<防災メールについて>

○ベトナム人はFACEBOOKで情報共有をしている。自分の周りのベトナム人にも知ってもらえるよう、FACEBOOKで情報共有したいと思う。広く知らせるには、日本語教室などに協力を依頼するのがいいのではないか。

○日本に来て防災ルールや避難訓練などを知ったが、ブラジル人の私にはわからないことだった。ブラジルでは台風や地震などはないため、よくわからなかったが、誰にも教えてもらえなかった。学校では、避難訓練などがあるので学校で学んだ子どもから親へ伝えているような状況。でも、独身、子どものいない人は教えてもらう機会がない。また、仕事ばかりしていて、社会のことを知る機会もあまりないことも考えられる。

本当に何かが起こったら困ることは間違いないので、知り合いにはぜひ登録するように言って、登録を手伝ったりしているがまだまだ登録が足りないと思う。子どもの避難訓練のときに、翻訳した資料を配るなどするのもいいかもしれない。外国人の多くいる会社では、忙しいとは思いますが、会社でしてくれるといいと思う。

●災害があまりない国から彦根に来られている人にとっては、災害のイメージがあまりないので、いくら市が情報提供をしても、本人の理解に結び付かないこともあると思う。

○滋賀県はあまり災害が起きないが、地震が発生することは考えられる。初めて地震を経験したときとても怖かった。ブラジル人にはあまり地震の知識はないと思う。

○中国では、昔はあまり地震がなかったのですが、あまりその怖さを知らなかったが、東日本大震災

で本当に怖いと思った。それからは食べ物と飲み物は備蓄するようにしている。機械翻訳をしている防災メールについては、翻訳がわからないこともある。日本語と一緒に書いているので、自分は意味が分かったが、日本語がわからない場合、内容の理解ができないこともあるのではないかなと思う。

○たとえ翻訳に誤りがあったとしても、日本語が書いているので周りの人に聞くことができる。だから間違っているかもしれない、と考えて送るのをやめるのではなくとにかく送ってほしい。少しずつ正しい情報になったらいいと思う。

●翻訳内容に誤りがあるなどの場合は、連絡をしてほしい。

○気象情報のメールには注意報と警報があるが、タイトルを目立たせるなどの工夫が必要。一番伝えたいことは目立つ必要がある。

○メールの文章が長いとわかりにくいので、短く書いてくれたらわかりやすい。機械翻訳の時も間違えにくい。また、タイトルも【お知らせ】にしたら間違えない。

○中国人はチャットのグループがあるので、そこに防災メールのお知らせをすると伝わるように思う。県内のネットワークになるが、彦根市民も多く含まれると思う。

●市はそのチャットグループに入れないので、手伝ってもらえるとありがたい。

○市内の飲食店(中華料理など)にはがきやチラシを置くとみってくれるかもしれない。今はコロナでなかなか行けないがそれでも、コロナが収束したらまた店を利用すると思う。

○外国人住民がいる世帯全部に送付したのに登録をされてないということは、防災への意識が低いということ。市がいくら働きかけても効果がない。知識を先に入れていかないといけない。

○今はコロナで集まれないが、前に外国人登録証の手続きの際に人を集めて勉強会みたいなものがあった。そういうものをするのがいいのではないかな。

●市の防災訓練に、外国人住民も参加してもらえるように呼び掛けているが、今はなかなか集まらない。コロナに関係なく災害は起こるので、集まれる時期を待つわけにはいかない。市では今はYOUTUBEを使って配信している。

○意識している人は見ると思うが、意識のない方、関心の薄い方に伝えるのが大変。

○YOUTUBEはそのアプリをダウンロードしてないと見ない。中国人はしていない人も多いように思う。中国人はWeChat(微信/ウィーチャット)を使っている。

●今後は市からの発信ではなく、キーマンから発信してもらうことも考える必要がある。今まではどのようにして情報を得ていたのか

○日本語のテレビで情報を得ていた。でも、日本語がわからないとはテレビを全然付けない。

○携帯で調べて情報を得ている。文字がわからなくても、記号や絵で何とか理解している。

○中国人の間では情報をシェアしているので、日本語がわからなくてもWeChatで情報共有している。雨の状況等も中には見に行つて写真を撮ってくる人もいて、わかりやすい。数字だけでお知らせが来てもわかりにくい。

< 備蓄品について >

- 滋賀も全く災害がないところとは言えないので、水や食料などを備蓄している。
- 前は食料も置いていたが、備蓄品の味があまりよくなかったので、今はチョコレートと水だけしかしていない。
- 最近はお湯だけ注いだら食べられるものもたくさん出ているので便利。
- お湯が手に入らないかもしれない。そう思うと、普段は使わないけどガスコンロが必要かもしれない。長く住んでいると自分で何とかしないとイケないと考えることもあるが、そうでないとわからないと思う。

< 雪について >

- 地震も怖いけど、私は雪に驚いた。どれくらい降ったら危ないのかも分からない。屋根から落ちてくる雪もかなり驚いた。経験がない者にとっては雪も大きな災害。
- 雪でケガする人も多いので、防災メールのときに赤字にするのもいいかもしれない。
- 雪を経験したことのない人に向けて、除雪の道具は何が必要かとかタイヤ交換のこととか伝えるのもいい。はじめは雪が降ると雪遊びができるなんて思っていたが、実際は買い物に行っても商品が売り切れていたりして困った。また、屋根から落ちてくる雪も危ない。
- 雪の予報が出ているときにはFACEBOOKで情報共有をしているが、今後も、雪での注意などもこまめに情報提供をしていきたい。